

「臨床決断のエッセンス

不確実な臨床現場で最善の選択をするために」

今井 裕一 訳
秋田大学医学部 EBM 研究会 協力

横浜市民病院神経内科部長

大 生 定 義

この度、秋田大学第3内科今井裕一助教授の手によって、『臨床決断のエッセンス：不確実な臨床現場で最善の選択をするために』が翻訳出版された。この原著者の Richard Gross 先生のセミナーは、私が昨年米国科学会に出席した折に受講し、原著である『Making Medical Decisions』もすでに数年前に購入して一読しており、この方面については一定の理解はしていたつもりではあった。しかし、今井先生のこの本はまさに訳書を超えている。原著とあるいは Gross 先生との共著と呼んでもよいと私は考える。初心者や日本の読者にとってわかりにくいところ、もう読むのをやめようかと思うところに、ちょうど今井先生の注釈やサイドメモがある。興味をつなぐ工夫がある。

この本を読ませて頂き、おかげさまで私自身も頭の中が整理されてきたことを実感する。臨床決断(あるいは判断、今井先生はこの本では決

定と訳されているが)分析は、大変重要とは思っているものの、一般臨床医にはとっつきにくい分野である。今井先生は Gross 先生との見事な共同作業でこの難問を解決されている。今井先生とは、『臨床指導医ガイド』(医学書院)などの出版の前からも、内科専門医会での卓越した発言・提言に個人的にも心からの尊敬を感じていたが、この本のなかにもその一端がちりばめられ、読者のかたがたにも随所できっと私に共感していたと確信する。

本書の要点は“はじめに”に書かれている。一部を引用しよう。…本書のテーマは不確実性である。(中略、決定分析の基礎を理解してからは)不確実性是一緒にいて心地良い同伴者のように思える。つまり、たとえ不確実性が存在していても、患者に対して自信を持って助言するにはどのようにすれば良いか知っている。また、不確実性を少なくしようとして積極的に検査を行ったり、治療法

を選択している時も、それが患者を助けることになるであろうと考えて行っているのであって、決して医師である自分自身の安心のために行っているのではない、とわかっているのだ。…

このテーマについて実例を通しながら、わかりやすく説いているのがこの本である。中には表や図も多い。私のまわりの研修医にも、英語はもうも、計算はどうもと尻込みする先生が多く、臨床疫学や医学判断学のよい教科書がなくて困っていた。医学生、研修医、指導医など医療の決定に関わる人々、さらにこの方面に関心を持っている方々に大変素晴らしい贈り物が誕生したことを喜びたい。

● A5 頁152 図15 表5 2002
定価(本体2,200円+税) 送料実費

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)